

## 在宅看護論における「訪問看護ステーション実習」の研究の動向と課題

Research trends and issues of "student practice on home-visiting nursing stations" in home-care nursing

下吹越 直子 Naoko Shimohigoshi

静岡県立大学 看護学部 School of Nursing, University of Shizuoka

八代 利香 Rika Yatsushiro

鹿児島大学 医学部 保健学科 Kagoshima University

2018年8月23日投稿, 2019年3月18日受理

### 要旨

看護基礎教育において在宅看護論では地域で生活する対象へ適切な対応ができる人材の育成が求められる。実習施設の中心となる訪問看護ステーションでの実習の内容を検討し、さらに教育の充実を図る必要があると考える。本研究では、教育内容の検討の前段階として、訪問看護ステーション実習に関する研究の動向を明らかにし、実習指導における今後の課題を検討することを目的とした。その結果、「学生が実習で学習した内容」や「実習で援助した内容・看護技術の経験の実態」、「実習運営の方法・学生の状況」、「実習の満足度」などの学生を対象とした文献は多く、実習施設・指導者側の実習運営等に関する文献は少ない傾向にあった。今後、社会の変化から、訪問看護ステーションの役割が期待される中、実習指導において、実習指導者と教員の連携や協力体制などの実習指導者側への支援について、早急な検討が必要であることが示唆された。

### Abstract

In keeping with changes in the social environment, even in basic nursing education, training is deemed necessary for human resources to respond appropriately to people living in the community. Accordingly, further educational improvement is deemed necessary in home-based nursing theory, based on studies on the contents of practical training at visiting nursing stations, which are central platforms for training. As a preliminary step in studying the contents of the curriculum, this study aimed to elucidate future issues based on the trends of research on practical training at visiting nursing stations. It was observed that while there were many studies on topics such as "what students learned through practical training", "actual status of assistance provided and nursing skill experienced in practical training", "practical training methods and student status", and "degree of satisfaction in practical training", there were few studies related to practical training management from the training facility / instructor's perspective. The results suggest that, taking into account the changes in the expected role of a visiting nursing station in practical training as a result of societal changes in the future, urgent study is necessary on the detailed contents of support for practical training instructors, such as collaboration between instructors and faculty, and the associated coordination systems.

### キーワード

訪問看護ステーション、臨地実習、在宅看護論

### Key words

home-visit nursing stations, nursing practice, home-care nursing

### 1. 緒言

在宅看護論実習においては、看護系大学の98%が訪問看護ステーションで実習を実施している(東京大学他2014)。在宅看護論実習は、学生が訪問看護師とともに、地域で生活しながら療養する複数の対象の居宅に赴き、それぞれの対象の事象について思考し、実際に看護援助を実践することから、学生が得る学びは大きいものと考えられる。しかし、看護基礎教育を担う看護系大学や看護師養成所は増加を続け、看護師等実習受入調査

の概要では、在宅看護論実習の実習施設の確保が難しい(文部科学省2016)という課題が顕在化してきている(日本看護系大学協議会2017)。しかし、訪問看護ステーションでの実習指導の実態は明らかにされていない。

看護師の役割が多様化する中、看護基礎教育では、地域で生活する対象の様々な状況に応じ、適切な対応ができる看護実践能力の習得が重要となる。在宅看護論の主な実習施設となる訪問看護ステーションでの実習において、地域で生活す

る対象とその状況を理解し、様々な対象に応じた看護を展開する教育の充実が求められる。在宅看護論実習の教育内容の充実を図るための第一歩として、訪問看護ステーションでの実習におけるこれまでの研究の動向を明らかにすることが必要であると考えた。

## 2. 目的

在宅看護論実習における訪問看護ステーションでの実習に関する研究の動向を明らかにし、実習指導における今後の課題を検討する。

## 3. 方法

### 3.1 文献の選定

文献の検索は、研究論文を対象に医学中央雑誌Web (Ver. 5) を用いた。キーワードを「訪問看護ステーション」「臨地実習」とし、絞り込み条件に「原著論文」を指定し、組み合わせ検索を行った結果、97件が得られた(2017年7月)。これらの文献を精読し、訪問看護ステーション以外で臨地実習が実施されている文献を除外し、対象文献の選定を行った。文献の選考基準を「訪問看護ステーションで実施された臨地実習について明確に言及されている」として得られた72件の文献(2000年～2017年)を分析対象とした。

### 3.2 分析方法

選定された分析対象の72文献について、まず文献の年次推移、研究対象、研究方法毎に分類した。次にそれぞれの論文を精読し、研究者が読み解いた研究の主題を抽出した。それを抽象化し意味内容の類似性に基づいて分類、サブカテゴリとした。さらに同義の内容をまとめカテゴリとし、カテゴリ名をつけた。分析過程では、妥当性を維持するため質的研究経験のある研究者と検討した。

## 4. 結果

### 4.1 文献の経年推移

対象とした文献の経年推移はすべてが2000年以降の報告であった。最も多く報告された年度は2014年の7件、最も少ない年度は2012年の1件であった(図1)。

### 4.2 研究対象者

研究対象者は、学生が52件(72.2%)、指導者が15件(20.8%)、学生と指導者の両者が4件(5.6%)、訪問看護の利用者が1件(1.4%)であった。

### 4.3 研究方法

研究方法はアンケート調査が34件(47.2%)、実習記録および看護技術経験録の分析が33件(45.8%)、インタビュー調査が5件(7%)であった。

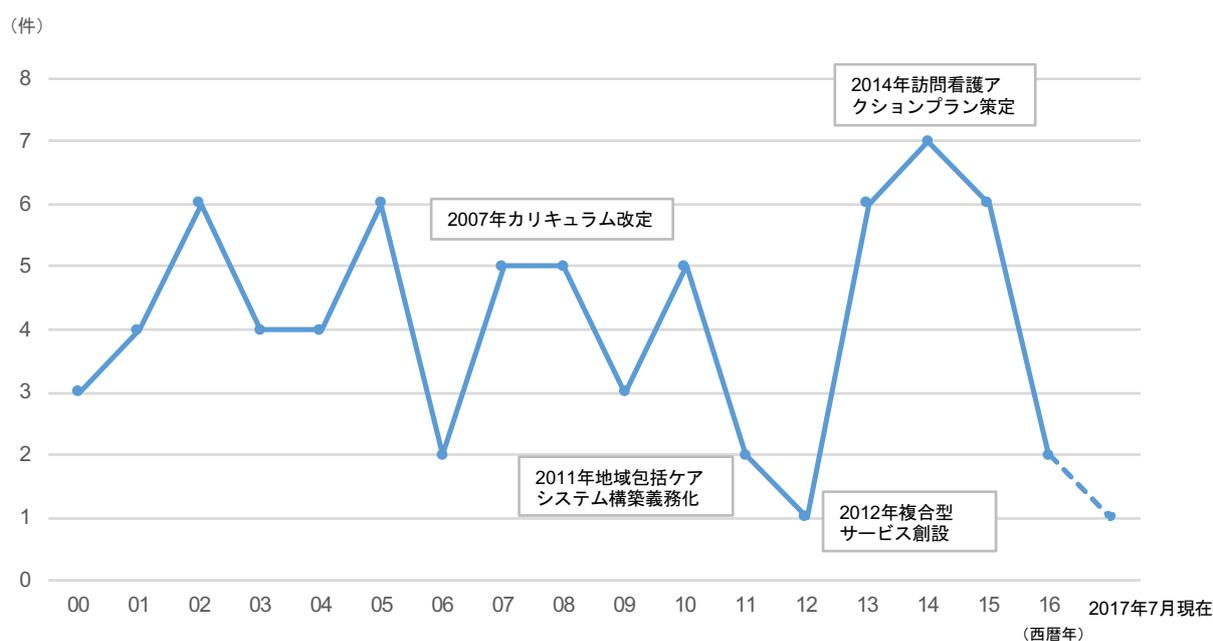


図1. 「訪問看護ステーション」「臨地実習」に関する論文数の推移

## 4.4 研究の主題

研究の主題を分類した結果、「学生が実習で学習した内容」「実習で援助した内容・看護技術の経験の実態」「実習指導」「実習施設の受け入れ」「実習運営の方法・学生の状況」「学生のマナー・実習態度」「実習の満足度」「実習指導者の学生への認識」の8カテゴリに分けられた。以下、カテゴリを「」、サブカテゴリを【】で示す(表1)。

「学生が実習で学習した内容」を主題としている文献は35件(48.6%)であり、内訳は【一般的な学びの内容】【実習施設の学びの違い】【実習の目標と成果】【学びの内容と課題】【実習で学んで欲しい内容】【家族介護者の理解】【連携での学び】【緩和ケアでの学び】【難病での学び】【利用者として感じたこと】【訪問看護師の印象】【指導実施と学生の習得度の関連】【実習で理解が困難な内容】であった。

「実習で援助した内容・看護技術の経験の実態」については16件(22.2%)であり、内訳は【看護技術経験の実態】【実習中に経験した援助内容】【実習開始までに習得してきてほしい技術】【実習中に学生が実施可能な技術】であった。

「実習指導」は4件(5.6%)、内訳は【指導上困ったこと】【実習指導の内容】【指導の取り組みの意識】であった。

「実習施設の受け入れ」については4件(5.6%)であり、内訳は【実習施設の受け入れの現状】【受け入れの認識】【受け入れの利点と問題点】であった。

「実習運営の方法・学生の状況」については4件(5.6%)であり、内訳は【実習方法の評価・課題】【学生の実習の戸惑い】【実習中に起こり得る災害への対応】であった。

「学生のマナー・実習態度」については3件

表1. 対象文献の研究の主題

| カテゴリ                 | 文献数<br>(割合)   | サブカテゴリ             | 文献数 |
|----------------------|---------------|--------------------|-----|
| 学生の実習での学習内容          | 35<br>(48.6%) | 一般的な学びの内容          | 15  |
|                      |               | 実習施設の学びの違い         | 6   |
|                      |               | 実習の目標と成果           | 2   |
|                      |               | 学びの内容と課題           | 2   |
|                      |               | 実習で学んでほしい内容        | 2   |
|                      |               | 家族介護者の理解           | 1   |
|                      |               | 連携での学び             | 1   |
|                      |               | 緩和ケアでの学び           | 1   |
|                      |               | 難病での学び             | 1   |
|                      |               | 利用者として感じたこと        | 1   |
|                      |               | 訪問看護師の印象           | 1   |
|                      |               | 指導実施と学生の習得度の関連     | 1   |
|                      |               | 実習で理解が困難な内容        | 1   |
| 実習で援助した内容・看護技術の経験の実態 | 16<br>(22.2%) | 看護技術経験の実態          | 11  |
|                      |               | 実習中に経験した援助内容       | 3   |
|                      |               | 実習開始までに習得してきてほしい技術 | 1   |
|                      |               | 実習中に学生が実施可能な技術     | 1   |
| 実習指導                 | 4<br>(5.6%)   | 指導上困ったこと           | 2   |
|                      |               | 実習指導の内容            | 1   |
|                      |               | 指導の取り組みの意識         | 1   |
| 実習施設の受け入れ            | 4<br>(5.6%)   | 実習施設の受け入れの現状       | 2   |
|                      |               | 受け入れの認識            | 1   |
|                      |               | 受け入れの利点と問題点        | 1   |
| 実習運営の方法・学生の状況        | 4<br>(5.6%)   | 実習運営の評価・課題         | 2   |
|                      |               | 学生の実習の戸惑い          | 1   |
|                      |               | 実習中に起こり得る災害への対応    | 1   |
| 学生のマナー・実習態度          | 3<br>(4.2%)   | 学生のマナーの実態          | 1   |
|                      |               | 学生のマナーに関する認識       | 1   |
|                      |               | 身につけさせたい態度と認識      | 1   |
| 実習の満足度               | 3<br>(4.2%)   | 実習の満足度             | 3   |
| 実習指導者の学生への認識         | 3<br>(4.2%)   | 実習の取り組み            | 1   |
|                      |               | 実習への認識             | 1   |
|                      |               | 学生に対する認識           | 1   |

(4.2%)であり、内訳は【学生のマナーの実態】【学生のマナーに関する認識】【身につけさせたい態度と認識】であった。

「実習の満足度」については3件(4.2%)であり、「実習指導者の学生への認識」は3件(4.2%)で内訳は【実習の取りくみ】【実習への認識】【学生に対する認識】であった。

## 5. 考察

### 5.1 研究の動向と概要

対象とした文献は、在宅看護論がカリキュラムに加わった1997年から1999年では報告はなく、すべてが2000年以降の報告であり、現在まで増減を繰り返し推移していた。訪問看護ステーションは老人保健法のもと1992年以降にサービスが開始され、2000年には介護保険制度が施行され訪問看護が居宅サービスに位置づけられた。在宅看護論が看護基礎教育に位置づけられたのは1997年であり、2017年までの20年間に、170校以上の看護系大学が開設された。これらの背景から、訪問看護ステーションが看護師養成機関の実習施設として増加し始め、「学生が実習で学習した内容」や「実習運営の方法・学生の状況」「実習で援助した内容・看護技術の経験の実態」等、訪問看護ステーションでの実習の評価や取り組みの検討などの文献が見られていたものとする。また、看護系大学の増加に加え、在宅看護論が統合分野に位置づけられた2007年のカリキュラム改定が文献の増加につながったものとする。しかし、経年別での研究主題に変化はなく、全般を通して「学生が実習で学習した内容」が約半数を占めていた。

学生を研究対象にした文献が72.2%と大部分を占めており、研究方法では、学生の実習記録および看護技術経験録等の分析が45.8%であった。なかでも「学生が実習で学習した内容」の文献が48.6%を占めており、看護師養成機関において、【実習の目標と課題】や【学びの内容と課題】を検討することにより、学生の実習目標の到達状況の確認や在宅看護論実習の枠組みや位置づけなど実習全体のあり方を考える取り組みがなされていたものと推測される。

また、【実習方法の評価・課題】や【学生の実習

の戸惑い】などの「実習運営の方法・学生の状況」や「実習の満足度」では、教員が実習に取りくむ学生の理解に努めていることがうかがえる。在宅看護論における訪問看護ステーションでの実習は、病院施設等の実習とは異なり、実習施設が点在し大学・学校等から距離が離れていることや、指導ができる教員や実習施設の人員などの制約が伴う。さらに、実習現場が利用者宅となるため、教員による直接的な指導が困難で、それぞれの訪問看護ステーションの裁量での実習となることが多い。そのため、学生の実習目標の到達のためには、綿密な実習計画を練った上で、効果的に実習を進めていくことが必要となる。教員は実習の検討材料となる学生の学習内容や看護技術経験の実態、実習運営の方法や学生の状況について把握し、評価につなげていることが考えられる。

### 5.2 訪問看護ステーションにおける実習指導に関する実態と今後の課題

【実習施設の受け入れの現状】では、療養者・家族の両方を考慮して、実習受け入れ家庭の選定や中止の判断をはじめ、実習運営上の困難への対処など、訪問看護ステーションの実習指導者が実習受け入れに関して努力している(牛久保 他 2015)様子が見られる。また、【実習の取りくみ】【実習への認識】では、実習指導者が学生に分かりやすく伝え、明るく質問しやすい雰囲気を作るなど、学生の自発性を伸ばすような意図的なかわり方を行っている(松下 他 2013)ことが示されている。訪問看護ステーションの実習指導者が学生の考えを引き出そうとする姿勢には、学生は次世代を担う人材であると考え、実習指導することが自分自身の学びや成長につながっていると意識しながら指導していることが推測される。

訪問看護ステーションは、そこに従業する看護師が5人未満の小規模事業所が46%(厚生労働省 2017)、10人以上の事業所は16%程度である。訪問看護ステーションの実習指導者は、人的に厳しい状況の中、日常の業務に加えて実習を受け入れ、実習指導を兼務している現状がある(松下 他 2013)。学生が利用者の療養生活の状況、価値観、家族関係など様々な側面をとらえられるよう適時な指導が必要な中、訪問看護ステーションでの実習は、1回の訪問で利用者とかかわるのは1時間

程度である。実習期間内の限られた訪問の機会と時間から、利用者の居宅において直接学生を指導するには限界があることが考えられる。また、訪問看護ステーションによっては複数の看護師養成機関を受け入れており（神奈川県 2016）、実習受け入れの対応における困難や、看護師養成機関それぞれの実習目的や目標に対応するための困難があることが報告されている（牛久保 他 2015）。このような課題に対応するためには、看護師養成機関と訪問看護ステーションとの連携による教育プログラムの整備や、実習指導の内容や方法の確立が必要であると考えられる。また、実習指導者の学生指導に対する緊張や苦痛、指導方法への不安など、実習指導者（松下 他 2013）に対する支援も重要である。これらの課題を解決するには、実習指導者と教員の連携が必要である（牛久保 他 2015, 鈴木 2015, 迫田・岡本 2014, 柏木 他 2015）ことが認識されながらも、具体的な方策は示されていない状況である。

今後、地域包括ケアシステムを構築する上で、訪問看護ステーションは医療と介護の両方にまたがり生活を支援する視点から今後の役割が期待されている（全国訪問看護事業協会 2016）。看護基礎教育においても、「多様な場における看護実践に必要な専門知識」「多様な場の特性に応じた看護」が、在宅看護に関する内容に位置づけられ（文部科学省 2017）、今後その教育内容の充実が図られることが予想される。在宅看護論実習における訪問看護ステーションでの実習指導の充実が求められることは必須であり、そのためには、実習指導者と教員との具体的な連携の内容や方法、協働について方策を示すことが急がれる。

## 6. 結論

これまでに報告されている訪問看護ステーションでの実習に関する文献は、学生を対象とした文献は72.2%と多く、実習施設・指導者側の実習運営等に関する文献は20.8%と少ない傾向にあった。訪問看護ステーション実習において、実習指導者の学生への実習指導の質を担保するためにも実習指導の内容や方法の確立、実習指導者と教員の連携や協力体制などの指導者側への支援について、早急な検討が必要であることが示唆された。

## 引用文献

一般社団法人日本看護系大学協議会(2017). 「看護系大学学士課程における臨地実習の先駆的取り組みと課題-臨地実習の基準策定に向けて-」報告書. <http://www.janpu.or.jp/wp/wp-content/uploads/2017/03/H28MEXTProject.pdf> (最終閲覧日: 2017年9月24日)

一般社団法人全国訪問看護事業協会(2016). 平成28年度厚生労働省委託事業 在宅医療関連講師人材養成事業 訪問看護分野 平成28年度訪問看護ハイレベル 人材養成研修会. 一般社団法人全国訪問看護事業協会, 東京.

神奈川県(2016). 平成28年度看護師等実習受入調査の概要(訪問看護ステーション). <http://www.pref.kanagawa.jp/uploaded/attachment/877776.pdf> (最終閲覧日: 2017年9月30日)

柏木聖代, 川村佐和子, 原口道子(2015). 看護基礎教育における在宅看護学実習の現状と課題-訪問看護ステーションへのインタビュー調査から-. 日本在宅看護学会誌3(2), 44-54.

厚生労働省(2017). 第142回社会保障審議会介護給付費分科会資料: 資料2 訪問看護. [https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu\\_Shakaihoshoutantou/0000170286.pdf](https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000170286.pdf)(最終閲覧日: 2017年9月30日)

松下恭子, 多田敏子, 岡久玲子 他(2013). 看護学生に対する訪問看護師の実習指導の現状と指導についての意識. *The Journal of Nursing Investigation* 12(1), 36-43.

文部科学省(2016). 文部科学省における看護学教育に関する検討の経緯 資料3. [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/koutou/078/gijiroku/\\_icsFiles/afieldfile/2016/11/15/1379378\\_03.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/078/gijiroku/_icsFiles/afieldfile/2016/11/15/1379378_03.pdf) (最終閲覧日: 2017年9月30日)

文部科学省(2017). 看護学教育モデル・コア・カリキュラム～「学士課程においてコアとなる看護実践能力」の修得を目指した学修目標～ 大学における看護系人材養成の在り方に関

する検討会. [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/koutou/078/gaiyou/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2017/10/31/1397885\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/078/gaiyou/__icsFiles/afieldfile/2017/10/31/1397885_1.pdf) (最終閲覧日: 2017年9月30日)

迫田智子, 岡本実千代(2014). 実習指導者として訪問看護師が捉えた在宅看護論実習の現状と取り組み. 第44回日本看護学会論文集 地域看護44, 188-191.

鈴木育子, 石津仁奈子, 佐藤正子(2015). 統合分野における在宅看護論教授法と実習指導の課題と方向性-過去6年間の在宅看護論に関する文献検討-. 看護学研究紀要3(1), 27-35.

東京大学, 日本看護系大学協議会, 東京医科歯科大学(2014). 平成25年度先導的大学改革推進委託事業: 医療提供体制見直しに対応する医療系教育実施のためのマネジメントの在り方に関する研究報告書 3-2. 調査結果・課題分析: 地域医療における多職種連携教育実施状況に係るアンケート調査結果・分析「超高齢社会に向けて地域在宅における患者家族の療養生活を支える基礎的能力育成への看護系大学の取り組み実態調査」. 文部科学省. [http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2014/06/10/1348629\\_03.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2014/06/10/1348629_03.pdf) (最終閲覧日: 2017年9月30日)

牛久保美津子, 飯田苗恵, 小笠原映子 他(2015). 訪問看護ステーションにおける訪問看護実習受け入れに関する状況. The Kitakanto Medical Journal 65(1), 45-52. DOI: 10.2974/kmj.65.45



#### 著者連絡先

〒422-8021  
静岡市駿河区小鹿2-2-1  
静岡県立大学 看護学部  
下吹越 直子  
[shimo-nao@u-shizuoka-ken.ac.jp](mailto:shimo-nao@u-shizuoka-ken.ac.jp)